

部活動における安全対策マニュアル

令和 7 年 8 月 30 日改訂

福岡高等学校

1 基本的な安全対策の考え方

(1) 学校における安全管理体制の構築

運動部活動については、全教職員・外部指導者・生徒が部活動の意義や本校部活動方針を理解するとともに、部活動におけるルールづくりや情報共有など、関わるすべての者の協力体制のもと、組織的に取り組むことが重要である。

(2) 事故防止のための安全に配慮した適切な指導

部活動は、顧問立ち会いのもとに行うことが原則であり、やむを得ず直接練習に立ち会えない場合には、他の顧問の教員と連携、協力したり、あらかじめ顧問の教員と生徒との間で約束された安全面に十分に留意した内容や方法で活動すること、部活動日誌等により活動内容を把握すること等が必要である。このためにも、日頃から生徒が練習内容や方法、安全確保のための取組を考えたり、理解しておくことが望まれる。

(3) 日常の活動に潜む危険性（複数の部活動が施設を共用する際の留意点）

グラウンドや体育館などの活動場所を複数の部活動が共用して練習するような場合、他の部活動の練習や生徒に対して注意を払う意識が薄れたり、配慮すべき安全対策を怠ったりすることがある。そこで、練習場所を防護ネットやカラーコーンなどにより明確に活動場所を区分して混在しないようにしたり、ボールなどの用具が他の活動場所に飛んでいった場合の合図の確認を双方で行ったりする必要がある。また、複数の部が施設を共用する場合は、各部でルールや約束事、禁止事項や活動の制限事項などについて、事前に話し合う機会を設け、決定事項を明文化して周知・徹底を図る。

(4) 施設・設備・用具等の安全点検と安全指導

運動部活動は、学校施設・設備・用具等を活用して行われるものであることから、活動にあたっては、顧問等と生徒が共に施設・設備の安全確認を行うことが大切である。顧問等は、生徒に、施設・設備及び用具の適切な使用や点検や確認の徹底が事故の未然防止につながることを認識させ、定期的な安全確認・点検を徹底する。

2 落雷事故防止に係る対応

(1) 基本的事項

- ・ 雷は、積乱雲の位置次第で、平野、山岳など場所を選ばず落ちる。また、周囲より高いものに落ちやすいという特徴がある。
- ・ グラウンド、山頂などの周囲の開けた場所にいると、積乱雲から直接人体に落雷（直撃雷）することがあり、その場合、約8割の人が命を落とすといわれている。
- ・ 落雷を受けた樹木などのそばに人がいると、それらから人体へ雷が飛び移る（側撃雷）ことがある。木の下で雨宿りなどをしていて死傷する事故は、ほとんどがこの側撃雷である。
- ・ 遠くで雷の音がしたら、既に危険な状況であり、自分のいる場所への落雷の可能性があると認識を持つ必要がある。

(2) 積乱雲が近づく兆し（サイン）

- ・ 次のような変化を感じたら、それは積乱雲が近づいているサインである。
まもなく、激しい雨と雷がやってくる。竜巻などの激しい突風が起きる恐れもある。



(3) 部顧問の対応

- ・ 顧問は、上記のような落雷の危険性を認識し、事前に気象情報を確認するとともに、天候の急変などの場合にはためらうことなく計画の変更・中止等の適切な措置を講ずること。

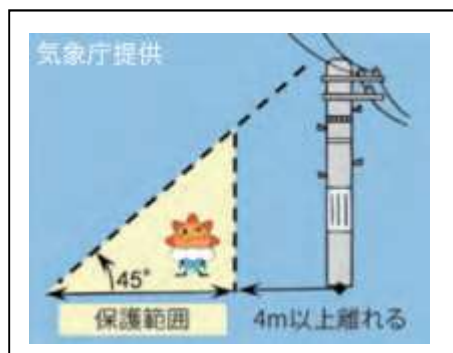
（参考）気象庁ウェブサイトにおいて、雷注意報等の発表状況や、雷発生の感応性の高い地域が地図上で確認できる雷ナウキャストなどの情報が提供されている。

(4) 避難の留意点

- ・ 屋外の部活動を中断し、速やかに屋内に避難すること。
- ・ 比較的安全な場所として、鉄筋コンクリート建築、自動車、バスの内部等があげられる。また、木造建築の内部も基本的に安全であるが、全ての電気器具、天井・壁から1m以上離れることができれば、なお良い。

<安全な空間に避難できない場合>

- 近くに避難する場所がないような場合には、低い場所を探してしゃがむなど、できる限り姿勢を低くするとともに、地面との接地面をできる限り少なくする。
- 電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体の最上部を45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4 m以上離れたところに避難する。
- 高い木の近くは危険であり、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2 m以上離れる。



3 運動部活動における安全対策状況調査結果を踏まえた安全対策のポイント

(1) バスケットボール・サッカー (ゴール型競技)

[予想される危険]

- ・コンタクトプレーによる負傷、脳しんとう等
- ・給水不足による熱中症や脱水症状
- ・周囲の確認不足による生徒同士の接触等による負傷
- ・ストレッチやウォーミングアップ不足等による負傷
- ・雷雨による落雷や負傷
- ・サッカーゴールの転倒による事故

[事故防止対策]

- ・危険なプレーを防止するための指導（コンタクトの仕方、ルールの確認）
- ・適度な水分補給の機会確保
- ・活動前の体調把握、周囲の安全確認
- ・十分な準備運動とストレッチ
- ・天候の把握と適切な活動中止の判断
- ・サッカーゴールはしっかりと固定されており、破損箇所がないか安全を確認

(2) バレーボール・卓球・ソフトテニス・バドミントン (ネット型競技)

[予想される危険]

- ・コンタクトプレーによる負傷、脳しんとう等
- ・給水不足による熱中症や脱水症状
- ・周囲の確認不足による生徒同士の接触等による負傷
- ・ストレッチやウォーミングアップ不足等による負傷

[事故防止対策]

- ・危険なプレーを防止するための指導（ルール、戦術の確認）
- ・適度な水分補給の機会確保
- ・活動前の体調把握、周囲の安全確認
- ・十分な準備運動とストレッチ

(3) 剣道 (武道)

[予想される危険]

- ・素振り時に周りの他の選手にぶつかる危険
- ・コンタクトプレーによる負傷、脳しんとう等
- ・給水不足による熱中症や脱水症状
- ・周囲の確認不足による生徒同士の接触等による負傷
- ・ストレッチやウォーミングアップ不足等による負傷

[事故防止対策]

- ・ 危険なプレーを防止するための指導（コンタクトの仕方、ルールの確認）
- ・ 適度な水分補給の機会確保
- ・ 活動前の体調把握、周囲の安全確認
- ・ 十分な準備運動とストレッチ

(4) 柔道 （武道）

[予想される危険]

- ・ コンタクトプレーによる負傷、脳しんとう等
- ・ 給水不足による熱中症や脱水症状
- ・ 周囲の確認不足による生徒同士の接触等による負傷
- ・ ストレッチやウォーミングアップ不足等による負傷

[事故防止対策]

- ・ 危険なプレーを防止するための指導（コンタクトの仕方、ルールの確認）
- ・ 適度な水分補給の機会確保
- ・ 活動前の体調把握、周囲の安全確認
- ・ 十分な準備運動とストレッチ

(5) 弓道 （武道）

[予想される危険]

- ・ 道場の安全管理が不十分で、矢が道場外に飛び出して、人に当たる危険性
- ・ 矢に傷があって、引き分けた際に裂けて射手がけがをする危険性
- ・ 矢が短く引き分けた際に弓の中に入り込み飛び出したり、折れて射手に当たったりする危険性
- ・ 矢取りの際に射手との連絡が不十分で、矢取りに入った者に矢が当たる危険性
- ・ 巻き藁に放った矢が、跳ね返り射手に当たる危険や外れて周囲の者に当たる危険性

[事故防止対策]

- ・ 定期的な施設・用具の安全点検の徹底
- ・ 指導者の許可無しに行射をしないルール・マナーを遵守する。
- ・ 安全な場所以外では絶対に弓を引かない。
- ・ たとえ矢をつがえていなくても、人のいる方向に弓を引かない。
- ・ 巻き藁練習を行う際には、巻き藁のところ、前後左右の近い所に人がいないことを確認する。

(6)陸上競技

[予想される危険]

- ・ 給水不足による熱中症や脱水症状
- ・ 周囲の確認不足による生徒同士の接触等による負傷
- ・ ストレッチやウォーミングアップ不足等による負傷
- ・ 練習用具の不具合による事故

[事故防止対策]

- ・ 疾走後に方向を変えるレーンを横断する時は、必ず前後左右を確認してから行動する。
- ・ グラウンドの整備状況に目を配り、不整地はこまめにならし怪我等を未然に防ぐ。
- ・ 冬季の暗い時間帯は反射帯等を装備するなど、お互いの存在を気付きやすくする。
- ・ 定期的な施設・用具の安全点検の徹底

(7)水泳

[予想される危険]

- ・ 体調不良や水温・気温の低い場合の事故の危険性
- ・ レーンロープフロートの破損やフックのカバーの不備による、身体の擦過傷等の危険性
- ・ 監視体制・救助用具の不備による事故の危険性
- ・ 泳ぐ方向の不統一による衝突事故
- ・ 練習用具使用時（パドル等）や練習用具の不具合が事故に結び付く危険性

[事故防止対策]

- ・ 定期的な施設・設備、用具、水質等の管理や安全点検の徹底
- ・ 健康状態の把握・練習環境の確認
- ・ 監視体制の徹底
- ・ 活動内容の検討
- ・ 安全指導の徹底、救急処置等の啓発の徹底

(8)硬式野球

[予想される危険]

- ・ バットスイング時に周りの他の選手にぶつかる危険
- ・ バッティング練習時、ピッチャーやボール拾いの選手に打球がぶつかる危険
- ・ バッティング練習時、ファールゾーンで別の練習をしている選手に打球が当たる危険
- ・ フライ捕球時、外野後方ネットやファールゾーンのネットに激突する危険
- ・ 守備時の野手と野手の交錯やプレー中における死球などの不慮の怪我
- ・ 雷雨による落雷や負傷

[事故防止対策]

- ・ バットを振る際の安全確認の徹底
- ・ グラウンド整備を徹底し、イレギュラーバウンドを減らす。
- ・ ボールや用具などがグラウンド上に落ちていないか、足下を確認する。
- ・ 選手同士の交錯やネット・フェンスへの衝突を避ける為、「危ない」の声を徹底する。
- ・ 天候の把握と適切な活動中止の判断
- ・ グラウンドの整備、管理

(9) ウェイトトレーニング

[予想される危険]

- ・ 練習場所の未整理、安全具の未装備（プレートの左右のバランス確認、プレートが落下しないように留め具でしっかりと固定されているか、ベルトやシューズ、バンテージなど必要な安全具が装着されているか）。
- ・ 用具の破損や器具の整備不良
- ・ 個々の能力以上による練習、誤ったフォームによる練習
- ・ 十分な準備運動の怠り、基礎基本の習得の不足
- ・ 周囲の安全確認、選手同士の声掛け、意思疎通の怠り

[事故防止対策]

- ・ 使用前の器具、用具の点検を十分に行う。
- ・ ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。
- ・ 軽い重量からウォーミングアップを行う。
- ・ 使用する器具の安全確認を怠らない。
- ・ 外したバーベルの整理整頓を行う。

4 ヒヤリハット事例

- (1) 陸上競技部でスタート練習中に、レーンを横切った生徒と接触しそうになった。
- (2) 水泳部で選手が泳いでいたところに、別の選手が誤って飛び込み衝突するところだった。
- (3) バレーボール部でネット張り作業中にネット巻器が跳ね上がり顔面に傷害を負うところだった。
- (4) 卓球部で他競技のボールが練習場所に入り、そのボールを踏んで転倒した。
- (5) サッカー部で、ゴールキーパーとオフense選手がプレーする際に衝突した。
- (6) 柔道部で乱取中、技を掛けた側が頭から畳に突っ込んで倒れた。
- (7) 弓道部で行射中にもかかわらず矢取りに出てしまい当たりそうになった。
- (8) 野球部でファールボールがネットを越え、歩行者に当たりそうになった。
- (9) ウェイトトレーニング中、バーベルが散乱し、そのバーベルにつまずき転倒した。

5 その他

○本校の「部活動における基本方針」

参考資料 1

○本校の熱中症対策

参考資料 2